石巻特進スクール発行の楽しく読んで学力アップと入試に強くなるお得な情報誌

第178号　発行日　平成23年11月4日

合格通信

今月の名言

人は常に機会を待てども
　機会は遂に人を待たず。

― 斎藤 緑雨 ―
(『弓矢神』)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

塾経営雑感①

20年間様々な子どもたちを見てきて、なかには「この子の成績をどうやったら上げることができるのだろう」「この子はどんなに私が教えてもダメなのではないだろうか」「私がやっていることは意味がないのではないだろうか」と思うことがたびたびありました。そのようなことを考えると不要な雑念に襲われて、自分の仕事を追及するという気力が失せてしまいます。ですから、現実的ではないかもしれませんが、すべての子どもは均等な能力があり、先天的な差はないと信じて、常に指導にあたっています。そう決意して日々仕事に臨んでいます。

そのような気持ちで仕事をしていると、この生徒にはどのような教材を与え、知識を定着させるにはどうしたらよいか、「勉強を教えるだけが自分の仕事ではないな」と思うようになります。授業のあとしっかり復習する子や、よく話を聞く子、長い時間集中して勉強する子、こうした子どもたちはさほど手をかけなくてもどんどん伸びるのですが、それ以外の子は指導者がどんな障害があり、どんなところでやる気をなくし、どんなところでつまずいているのかを知り、そうした障害をひとつひとつ取り除いてやらなければなりません。多くのご両親は「うちの子は、勉強が苦手なのはわかっている。集中力がないのもわかっている。勉強の要領が悪いのもわかっている。でも何とかしてほしい」そのような気持ちで塾に子どもを連れてくるのです。だからそれをなんとかしなければなりません。

また子どもを伸ばすには家庭での環境作りが大切です。子どもは様々な環境から影響を受けて育ちます。学校、社会全般、家庭など、そのなかで一番重要なのは家庭にほかなりません。両親がどうすれば子どものためになるのか考えて欲しいのです。以前にこうした例がありました。子どもが部活から帰り、疲れたから今日は塾を休みたいといい、親はかわいそうだと思って塾を休ませる。それが頻度を増し、結果的に学力が付くはずもなく退塾する。これが子どものためになるのでしょうか。一方で、少しぐらい子どもの体調が悪そうでも、知らないふりをして塾に子どもを送ってくる母親もいます。かぜをひいていても「行け」という父親もいます。青白い顔をして勉強している姿を見て「だいじょうぶか」と声をかけたほどです。こうした親の子どもはやはり伸びました。入塾時２年の時点で学年の中位だったのが、徐々に順位を上げ３年２学期には上位まで上がりました。こうした親はただ強制してやらせるというのではなく、子どもが誤った方向に進まないように舵をとっているのです。子どもを伸ばす、真に愛情を持った親とはこうした親だと思います。１回ごとのテストの結果はもちろん気になるでしょうが、いちいち小言を言って干渉するのは良いことではありませんし、無関心でもいけません。大局的な視点から舵をとって方向を誤らず、まずは勉強の「場」を作ってあげる。簡単に勉強を休ませたり、部活動ばかりを優先させたところで子どもの将来にどう影響するのか考えて欲しいのです。